

令和5年度 学校自己評価システムシート (学校法人狭山ヶ丘学園 狭山ヶ丘高等学校)

目指す学校像	学力向上と希望進路の実現および部活動のさらなる充実発展を目指す。
--------	----------------------------------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 大学合格実績の伸長</li> <li>2 教科指導の徹底と学力向上</li> <li>3 部活動の活性化</li> <li>4 基本的生活習慣の構築</li> </ul>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	11名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	3名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (6月5日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全生徒の学力向上を目指し、授業の充実はもちろん、朝ゼミ、放課後ゼミを展開している。ポストコロナの時代となり、以前のような活発な夏期講習等を実施した。</li> <li>・多く生徒たちは上位層の大学進学を目指し、東京大学複数合格を2年連続で成し遂げたが、最上位層への志望者についてはやや減少傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望進路の実現。</li> <li>・高い志を育成し、進路実現を支援する各種取り組みの推進。</li> <li>・補習、講習への参加人数の動向。</li> <li>・模擬試験等の偏差値動向を見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ChromebookやGoogle Workspace for Educationを日常から有効活用し、ICT機器を活用した教育活動を学校全体で推進する。</li> <li>・全体指導や進路ガイダンスの際、自己の可能性を信じ、上位校を目指そうとする文化を醸成・浸透させる。</li> <li>・主体的な学習意欲の向上(面談・学習リサーチ結果等の利用)を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平素から互見授業を通して、研究体制を整え、自身の授業実践に活かす。</li> <li>・上位大学を目標とする生徒数。</li> <li>・模擬試験等において目に見えて実力が高まった生徒数</li> <li>・早い時期に目標大学を決め、その意志を貫いた生徒数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路行事の適切な実施、情報提供によって、高い進路意識を持たせることができ、東京大学に現役生2名、また医学部医学科にも複数合格するなど例年になく高い水準であった。ただし、本校生徒の知的レベルからすると相当の大学を目指すのだが、新課程入試の影響等もあり、安全志向の傾向が高い。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来に対する高い目的意識を早期から持つことによって、より高い目標を持ち続けることの重要性、優位性を認識させる。</li> <li>・交換留学制度等の利用を通してこれまでに視野になかった海外の大学にも挑戦させたい。</li> <li>・中間から下位層の成績を全体的にレベルアップさせる必要がある。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考力・判断力・表現力」の養成を強化する一方、生徒の表現力には差があり、どの程度まで理解しているかを的確に把握することが難しい。</li> <li>・学習についてやや受け身であり、主体性を伸ばしていく指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善及び学習環境の整備など、特色のある教育活動の推進。</li> <li>・小テストを使って理解度を測る。</li> <li>・個に応じた指導を活かして、生徒の自学自習を推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の理解度を定期的に小テストやレポートを実施することによって把握する。</li> <li>・課題レポートの作成などを利用して生徒の表現力の向上につとめる。</li> <li>・特別自習室やChromebookを積極的に活用させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路意識の高まり、保護者からの協力、関心度。</li> <li>・自学自習をするようになったかどうか。</li> <li>・努力の蓄積により、生徒の実力が向上したかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒は集中して授業を受け、思考力・判断力の向上を見ている。</li> <li>・多くの生徒が特別自習室や生徒ホールを活用して自学自習に励んだ。</li> <li>・「表現力」の部分についてははまだ発展の余地が残る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークや対話的な授業展開をさらに深め、生徒の表現力向上に努める。</li> <li>・定期考査における論述問題の出題を増やしたり、レポート課題、小論文の取り組みへの句風を継続する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動への加入状況はⅠⅡⅢⅣ類ともに、全体としては高い状況を維持しているが、コロナ禍の影響で加入率がやや低下したままの状態にある。</li> <li>・部活動の一層の活性化のために学習との両立をより重視して、指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県大会、関東大会全国大会への出場や発表会の結果。</li> <li>・主体的に活動できる生徒の育成。</li> <li>・活動報告の度数。</li> <li>・体育祭や文化祭等における活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に全校生徒が参加できるように工夫を凝らす。</li> <li>・アフターコロナにおける、活動内容や活動時間に関する、さらなる工夫とその実践。</li> <li>・練習の日程や時間を見直し、効率の良い練習内容を考え、学習との高度な両立を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生に限らず、部活動への参加人数が増加したか。</li> <li>・活発に活動しているクラブが増えたか。</li> <li>・県大会以上の大会への出場数の増加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動顧問会にて生徒の参加状況を把握できた。</li> <li>・クラス担任は、面談や学習リサーチ等を通じ、学業と部活動との両立のための適切な助言をした。</li> <li>・関東8年連続出場の女子バレーボール部もある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動への勧誘活動や募集期間について、多くの生徒の参加意欲を高められるような工夫をする。</li> <li>・短時間で効果的な部活動の運営をさらに模索する必要がある。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣は概ね確立されており、欠席、遅刻、早退は極めて少ない。</li> <li>・挨拶はしっかりできるが、一部十分ではない生徒もいる。</li> <li>・深夜帯にゲームやSNSなどに没頭し、朝が弱く、寝不足気味な生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかな挨拶の励行</li> <li>・校則を遵守する。</li> <li>・自転車乗車時のマナーや歩道の歩き方といった、自主自立を育成する指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で常に生徒を見守る。</li> <li>・事前に十分な指導、説得し、その上で、少ない校則を確実に守らせる。</li> <li>・連絡事項に終止することなく黙想を通して、自己を見つめる指導を、担任のHR時に確実に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽微なものではあるが、校則違反者がどの程度減ったか。</li> <li>・心の通い合う、さわやかな挨拶が交わされているか。</li> <li>・毎日の生活の中で黙想を行っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活生を中心に挨拶はしっかりできている。</li> <li>・一部の生徒ではあるが、自転車の交通マナーについての苦情が時折報告される。</li> <li>・SNSリテラシーが身に付いていない者もいる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR時の担任指導を含め、あらゆる機会を活用し、マナーの指導とその徹底を図る。</li> <li>・交通マナー、SNS指導についてはLHR時の指導をより充実させる。</li> </ul>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和6年7月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>勉強に多少の苦手意識があったとしても入学当初から、自分がやりたいことが決まっている生徒は、おのずと何か大きなものをつかむことができる。10年後の履歴書を書いたりして、どのような将来のビジョンを持つのかを重点的に考えさせていきたい。それに向かって、どのような勉強をしていくべきなのかを見極めることが重要である。来年度から導入するスタディサプリなども援用して、進学実績のさらなる伸長を図っていきたい。</p> <p>安全志向の高まりから、現在の大学入試は、学校推薦型や総合型といった年内入試の比率が高まっているが、これらは特に日頃の学習の成果が求められる。保護者側の協力も必要だが、現役合格を視野に入れながらも、滑り止め、本命のみにとどまることなく、さらに上の大学に果敢にチャレンジする気概を養いたい。</p> <p>女子バレーボール部の8年連続10回目の関東大会出場をはじめ、各部活動での実績が着実に上がってきている。弓道部、陸上部だけでなく、野球部やサッカー部吹奏楽部といった強化部での活躍がさらに期待される。定期演奏会での吹奏楽部の演奏とパフォーマンスは必見である。</p> <p>周辺住民の方々から頂く苦情も皆無ではないが、校内でも路上でも爽やかな挨拶を交わしてくれる生徒が多い。電車内でも、コンビニエンスストア、スーパーでも、大きな声で騒ぎ立てたり、駐車場に座り込んだり、一般市民の方々にご迷惑をかけている姿を見たことはほぼない。</p>	